

賀川豊彦

神戸文学館 ● 企画展

愛の労苦と希望
賀川豊彦の文学

献身
100年

「私のすることは神の事業である。
神の事業であれば神助け給う」

(武内勝口述「賀川豊彦とそのボランティア」四九P)

先生はマタイ伝25章40節の

「あなたがたによく言っておく。

わたしの兄弟であるこれらの

最も小さい者のひとりにしたのは、

すなわち、私にしたのである」とあります聖句を、

そのままに実行しておられるのであります。

(同上書三二P)



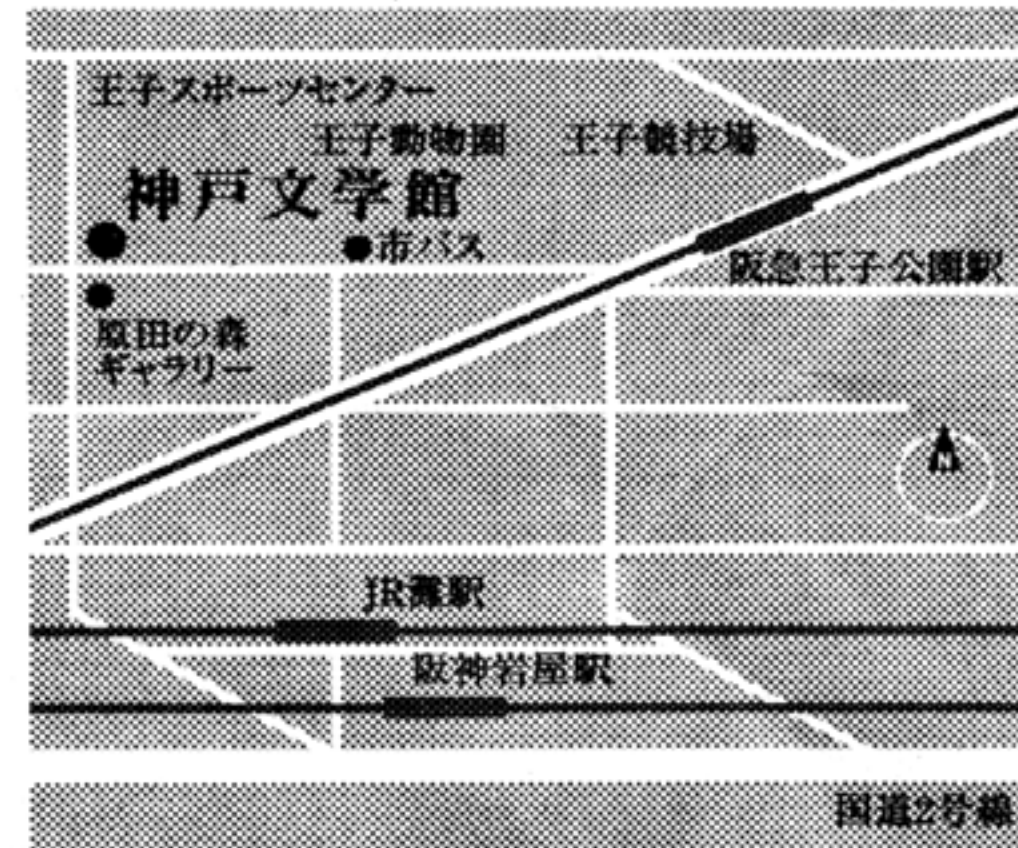
賀川豊彦は1909年12月24日、クリスマス・イブの日に当時神戸最大のスラムだった「新生田川地区」に入って、救霊救貧活動を開始した。やがて貧困者を生み出させないために労働運動の指導者となり、農民組合を育て、消費組合を始め、関東大震災が起こると直後に東京での活動を開始するなど、日本の社会運動の殆どの草創に関わり、またキリストの伝道者として日本中、そして世界中を駆け回った。平和運動家でもあった。その著作も神学、哲学、経済学、社会学、労働組合論などの運動論、さらに宇宙論まで幅広いが、空前の大ベストセラー小説「死線を越えて」をはじめとする文学作品のウェイトも大きい。「僕は詩人だ」と賀川豊彦は生前よく言っていたという。賀川豊彦の残した詩、小説、童話などから「彼が何を考えて、何のために、いろいろな活動に取り組んでいったのか」を感じ取ることができないだろうか。

展示資料

- 原稿 「壁の声きく時」「太陽を射るもの」「再生」
- 手稿 「死線を越えて」
- 雑誌 改造第2巻第1号「死線を越えて」
雄弁「一粒の麦」
- 書籍 「死線を越えて」(海外翻訳本を含む)
「銀河系統」
- 書簡 徳富蘇峰より「涙の二等分」の御礼
徳富蘆花より「太陽を射るもの」の御礼
- 挿し絵 「空中征服」
- 日記 「健闘録」「溢恩記」
- 写真 など約100点

神戸文学館

〒657-0838 神戸市灘区王子町3丁目1番2号
(王子動物園西隣) 電話・FAX 078-882-2028



入館無料

期間 2008年11月1日(土)~2009年2月24日(火)
平日 10:00~18:00 土・日・祝日 9:00~17:00

休館 毎週水曜日(休日の場合は翌日)12月28日~1月4日